

## アピール

この一年間の世界を俯瞰して観ますと、地球の環境問題がクローズアップされて来ました。

新年の挨拶で中国電力の清水希茂<sup>まれしげ</sup>社長は、CO2削減の為に原子力を活用するのが現実的だと述べました。しかし実際には原発はウラン等の原材料を生成する迄に膨大なエネルギーを使い、原子炉冷却の温水を海や川に流し、温暖化を助長している危惧があります。

また高レベル放射性廃棄物を約10万年間安全に管理するには、巨大なコストとCO2を発生する膨大なエネルギーを消費します。

他の発電方法と比べて、原発こそ、はるかに大きな環境破壊をもたらすものです。

清水社長の発言は一見当然のように見えますが、欺瞞そのものです。

福島第一原発でのトリチウムを含む汚染水は、昨年来、海か大気中に放出するというとんでもない議論になっています。

関西電力のいわゆる原発マネーと言われているものは、長年に渡って大きな金銭が動いた原子力村の闇を映し出すものです。

核燃料サイクルの中核をなす高速増殖炉は、共同開発の相手のフランスが計画を中止、完全に行き詰まりました。しかし発電に使う当ても無くなったプルトニウムを抽出するために、コストが10兆円以上の六ヶ所再処理工場を動かそうとしています。

山口の上関では、国が原発の新設を認めていないにも関わらず、中国電力は建設予定地の埋め立て申請を行い、38年間に渡り祝島の人達を苦しめています。

しかし一方、この1月には脱原発への嬉しい大きな動きもありました。広島高等裁判所において、良識のある司法の判断により、伊方原発3号機の運転を差し止めるという仮処分が出ました。

私たち市民の運動によって、脱原発を願う世論が高まっていると確信できます。私たちは希望を持って核発電という不条理にあらがい続けましょう。

核による兵器をこの地上から無くし、核による発電をこの地上から無くして行くために、これからも粘り強く運動して行きましょう。

2020年2月1日

さよなら原発ヒロシマの会 総会参加者一同